

生野銀山の歴史

兵庫の山々 山頂の岩石

時代	西暦	元号	記事
奈良	715頃	和銅8	生野は播磨国「聖岡の里」に属し、応神天皇が生野と名づける（「播磨国風土記」）
平安	807	大同2	生野で銀が発見されたと伝えられている
	905	延喜5	貢物（税）として「但馬の銀」（「延喜式」）
室町	1427	応永34	山名時熙（ときひろ）古城山に生野城を築く
	1526	大永6	石見で大森銀山発見
	1533	天文2	石見で灰吹法による銀精錬に成功
	1542	天文11	山名祐豊（すけとよ）が銀山統治のため生野城（平城）を築く（「銀山日記」）
	1542	天文11	石見銀山から蘭人によって灰吹法が伝わる
	1558	永禄元	竹田城主太田垣氏が鉱山管理史を置く
	1567	永禄10	金香瀬での採掘が始まる
	1569	永禄12	織田信長の命を受け、羽柴秀吉が山名氏を破る 生野銀山は信長の支配となる
安土	1578	天正6	織田信長、生野代官を置く
桃山	1582	天正10	本能寺の変があり、豊臣秀吉が代官を置く
江戸	1600	慶長5	関ヶ原の戦いがあり、徳川家康が奉行を置く
	1621	元和元	最盛期を迎える「白口千軒」といわれる
	1660	万治3	大火災が起き衰退期へ
	1692	元禄5	灰吹銀の生産760貫に
	1716	享保元	徳川吉宗、生野奉行を廃し代官を置く
	1738	元文3	元文一揆 生野銀山山師、鉱夫、農民による強訴が起きる
	1841	天保12	代官所内に学問所（尊性堂、後の麗澤館）が開かれる
	1863	文久3	生野の変（生野義挙）が起こり生野代官所が占拠される
	1867.12.09	慶応3	王政復古
	1868.01.03	慶応4	鳥羽伏見の戦い 薩長連合が旧幕府軍に勝利
	1868.01.15	慶応4	山陰道鎮撫軍が生野銀山を占領 折田要蔵が生野代官所支配地の執事に
	1868.01	慶応4	生野代官所を但州取締所と改名 天皇領に
	1868.02.19	慶応4	生野を府中と改称 但州取締所は府中裁判所に
	1868.07.16	慶応4	府中裁判所は久美浜県に編入 久美浜県生野出張所になる
明治	1868.09	明治元	コワニエ、朝倉盛明、生野に到着
	1868.12	明治元	鉱山司役所を置き、朝倉盛明を判事に、コワニエを鉱山師とする
	1869.05	明治2	太盛・天受の両鉱山を政府が鉱山師から没収
	1869.08.10	明治2	生野県が設置され、旧代官所が県庁となる
	1871.10.15	明治4	播但一揆が起こり、生野銀山工場が焼打ちにされる
	1871.11.15	明治4	廢藩置県 生野県は豊岡県に合併される
	1876.05.23	明治9	鉱山新工場・馬車道（生野一飾磨港間）が完成し、落成式を行う
	1876.11	明治9	コアニエ、生野を去る
	1878	明治11	神子畑で金銀鉱脈発見
	1885	明治18	馬車道（生野一神子畑間）が完成
	1889	明治22	政府直営鉱山から皇室財産に移され、宮内省御料局の所管となる
	1890	明治23	大島道太郎が「生野銀山鉱業改良意見書」
	1895	明治28	播但鉄道生野一飾磨港間が開通
	1896	明治29	三菱合資会社（岩崎久弥）に払い下げ 生野町には六万九千円の御下賜金（浅田貞次郎）
大正	1919	大正8	神子畑に大選鉱場建設
	1920	大正9	銅の精錬部門を直島へ移設
	1920	大正9	本部一支庫間の市川右岸に電車専用道（トロッコ道）が開通
昭和	1970.01.26	昭和45	初めての山はねが起きる。始業前だったので、人的被害なし。
	1973.03.22	昭和48	生野鉱山閉山、生野製作所になる
	1974	昭和49	銀山公園「史跡生野銀山」がオープンする
	2007	平成19	「近代化産業遺産」認定
	2014	平成26	「重要文化的景観」選定
	2017.04	平成29	「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」日本遺産認定

参考 生野書院パンフレット（朝来市）
「生野銀山と銀の馬車道」清原幹雄 2011 神戸新聞総合出版センター
生野銀山（生野町公民館“歴史をつなぐ会” 1992）